

身延町総合計画策定町民ワークショップ開催報告書 ④

第4回開催概要

1. 開催概要

開催日時：2026年1月19日（月）14：30～

開催場所：中富総合会館

参加者数：21人（町民）

2. 第4回の位置づけ

テーマ：「基本構想の確認・意見交換」

目的：基本構想」を基に身延町の将来を意見交換し、イメージをすり合わせ来年度に策定する基本計画の基礎資料とする

実施内容

- 2.1 これまでの振り返り
- 2.2 基本構想（将来像と4つの政策）の共有
- 2.3 テーブルごとに意見交換
- 2.4 参加者全員からの感想

3. 意見交換

今後の基本計画策定に関する意識合わせをするために、将来像実現に向けての内容をざっくりばらんに意見をいただく。

- ・ 意見をすり合わせることで、来年度策定予定の基本計画の施策や事業につなげる。
- ・ どんなイメージか、それにはどんな事業を望んでいるか。できないは置いておき、意見を出してもらおう。
- ・ 付箋等はなし。ファシリテーターが記録&レコーダーで記録

4. 各テーブルのまとめ

各テーブルから出された意見は以下のとおり。

4.1 テーブル①

(メンバー (敬称略・順不同))

浅野秀人、市川和希、遠藤綾子、笠井雄一、加藤新、小林あゆみ

【つながりについて】

- ・交流人口の拡大に着眼し、「交流し、お金を落としてもらう」関係人口を増やすべきではないか。また町内に既にヨーロッパからの移住者もあり、スイス・ジュネーブとの提携など「突拍子もない」挑戦も検討価値があると思う。

【未来への挑み～産業・観光・農業について】

- ・他の地域と同じ計画では人口や交通条件の差などで身延町は不利になるため、「突き抜けた」独自戦略の必要性があると思う。
- ・ネット環境が整い、仕事自体はどこでも可能になったが、そうなると、都市近郊の大月などの都市に流れてしまうため、身延町へ来るプラスアルファの「理由」の設計が不可欠である。
- ・行政の観光や産業の重なりなどの縦割り課題を解決するため、受付から実行まで、ワンストップで扱う「まちづくり公社」を提案したい。観光フェスなどイベントも一体で担い、迅速な意思決定を実現させるためのもの。実行能力向上のため、町長の右腕級の行政責任者を公社に置いてはどうか。
- ・学校の横にビルを建設し、学習塾・書道・そろばん・ピアノ・カフェなどを集約する。子どもは放課後1～2時間をそこで過ごし、保護者はカフェでお迎え待機も可能である。まとまっているため家庭の送迎負担を削減できると思う。
- ・身延山大学という稀有な資産を核に、仏像彫刻・芸術・音楽・農林業・伝統文化などを組み合わせた「大人の学び直し」プログラムを検討、実装してもよいではないか。全国からの誘客・人材育成を見据えたニッチ戦略も有効であると考える。
- ・中高一貫の意義が伝わらず、甲府と同質なら身延高校は選ばれない現状がある。身延高校はカヌーのような希少競技もあるが、なにか強みのあるのある学科、部活、プログラムなどが必要ではないか。
- ・森林コースでのドローンレースや、飛行許可取得を代行する「飛ばせる場所」サービスを提供してはどうか。ドローンは飛行場所がかなり限定されるため、田舎の広さ・安全性を活かしマニア層を誘致可能ではないか。

4.2 テーブル②

(メンバー (敬称略・順不同))

金岡義朝、小林亜沙美、佐野康宏、佐野慈一、古屋徳至

【つながりについて】

人口推計にもあるように人口減少の中皆を巻き込み、外から人が来るような特化した取り組みが必要。DXに特化した人材を育成する。DXを学ぶなら身延町だ、となるようなものが必要だと思う。

DXじゃなくてもいいが、何か他の学校ではやってなくて、それでも求められるものがあるのではないか。そういうところをやっていくと、若い人達同士のネットワークでもつながっていくと思う。人が少ないことを逆手にとったり、そこに行かないとならないといったわざわざ感があるといい。

私の子どもが身延高校の1日体験入学に行ったが、身延高校への進学はかなり減っているようだ。そうすると、「誰も行かない高校には行かないよ」となり、加速度的に人(入学者)が減る。政策より人の動き(人が減るスピード)のほうが速く、政策決定されたときには手遅れということも起きかねない。

行政の場で「早く」というのは難しいのかもしれないが、やはりスピード感が必要。最終的には決めるだけ。決める人たちがどう判断を早くするかという話だ。ちょうど今はDXも必要がある。そこをしっかりとした感じでスピード感を持って取り組めば、こういう地域だからこそ差別化にはなると思う。今はまだ他でやっていない時に進めるべき。

また、女性に対しても良いのではないか。デザインや広告・マーケティングといった職種は在宅でできる部分もかなりある。ここに住みながら仕事もできるというスキルがつくのは良い。先ほどの人口ビジョンをみても、女性が外に出てしまうと子どもも生まれにくい。子どもをここで育てながら、自分の時間で仕事ができる人材づくりという特化の内容は良いのではないか。

私は少し考えが違って、特化する場合、何を特化するかを多分、選びきれないのではないかという気がしてる。そのため、今のリソースを使いながら外の人たちを入れる仕組みづくりが必要と考えている。仕組みを作り、例えば1週間、東京などから「一緒に勉強できます」といった短期留学的な要素として出せばよいと考える。例えば企業とタイアップして課題解決を考えるなどといった勉強ができるなどとなると良いと思う。

これはどちらかというと、高校生以上の取組。中学生だとまだ行ける現場がないかもしれない。ただ、その種を中学でまいておくという形(仕組み)は作れる。

あとはそれがまたコミュニティとか地域活動ともつながっていくとまた「つながり」というものの広がりが出てくる感じがする。

ただ、そういう地域活動のコミュニティの担い手不足という課題についての問題もある。

今、部活動でも地域移行が起きているが、身延町にはその指導者としての人材がおらず、地

域移行も難しい。

ほかには、例えば施設利用についても有料の部分で活動できない人たちもいる。そういうことを考えたら、新しく部活動の地域移行も、地域のコミュニティ活動も同じ場所のできるようなものがあり、それを全部まとめて施設指定管理でやる。活動をすべて担ってくれるような指定管理という考えも1つあると思う。サークルにしても募集から運営まで全て。

施設は、結局施設維持のためには有料にするしかない。稼げれば無料化できる。そのためには例えばそういった施設に合宿チームを呼んで利用してもらおうといったことも考えられる。身延山の宿坊とセットで精神統一も入れるなどもある。

【安らぎについて】

この自然と調和して安心して暮らせるまち。

自然、山に守られて生活していると感じている。自然との調和調和というか自然とは切っても切り離せないところ。山に守られて外敵がいない場所。そこは安心できて安らぐ場所。ば利便性とは真逆。

確かに自分の中では安らぐ場所。この前の正月2日は、ほとんどの店が閉まり、車もあまり通っていなかった。うちの裏も普段は車の音などが結構聞こえてくるが、車の音は何もなくて風と鳥、川の流れの音しか聞こえてこなかった。それが安らいだ。本当に何にも人工的な音がないというのは、とても安らぐ。

それは、生活の利便性とは真逆。計画に、自然との調和と生活の利便性が同じ「安らぎ」に入っているが、人によって捉え方が違う。だから、その心を安らぐの部分の安らぎと、何でもできるっていう安心感それが生活の安らぎ。人口が多かった時から見ても、商店街の店は減ったが、身延山のお寺の数は1つしか減っていない。

心の安らぎと生活の安らぎの2つの安らぎがある。それがどう共存できるか。

この町に人が5万人増えた場合、この安らぎという言葉は、どちらかという生活の利便性の方に寄ってくる。ちょうど昭和48年ごろの団塊の世代で人口がイケイケドンドンだった時代には、駅前も商店街もにぎやかだった。ただ、今その利便性のほうの「安らぎ」かというところでもない。

多分その利便性で交通って皆さん必ずおっしゃる部分で、ここの生活の安らぎの方にも入ってくるかと思うが、今、車がいなくてとっても安らいだという部分と、それでも便利な方がいいことは確か。その部分も大事にしながらも、生活の安らぎ、暮らしやすさ、そしてもちろん防災・防犯という部分も含めて、どうやって自助・共助を保つかというところが課題だと思う。

ただ、交通の部分は全員が共通してるぐらいに「交通がとにかくなんとかなれば」という意見はある。

自分あまり不便に感じていないからかもしれないが、「そういう土地なんだ」ということを受け入れたうえで、その場所でどれだけ誇りを持ってるか。そこを育てていく方がよいと考えている。意識を変える。ないもの探しよりも、あるものに意識とスポット当てていくということは重要だと考える。良いところを共有して伸ばしていく。

また、医療の面からいえば確かに産婦人科と小児科がないのは不便だが、そこは他市町村との連携強化でカバーできるのではないか。例えば身延町民を優先してもらえる等々。山梨大学医学部との連携はあったようにも思う。

また、中部横断道もあるので、それを活用すれば利便性は高くなる。

オンライン診療も増えてくる。薬をもらいに病院に行くというのも、オンライン診療で済むようになるかもしれない。病院だったり、交通だったりを何とかするというよりも、オンライン診療が受けやすくする環境を整えておく、という視点も重要。そうすれば安心と利便性のバランスが取れるようになるかもしれない。

うちの会社も病院と提携しており、オンライン診療でいつでもセカンドマソンとかでできるようになっている。そこで処方もある。ある意味安心だ。

【未来への挑み～産業・観光・農業について】

観光とか産業とか農業の人を知っていただくのは確かに大事だ。ただどういう方に来ていただきたいかもある。イベントにしても単なる賑やかではなく、こちらもどういう人に来てもらいたいかを考える必要がある。

やっぱり地域的にもこの地域を分かっていたいただいて、この地域を深く理解してもらわない。そういう方々に来ていただき、ういう人たちに満足して次も来ようという形になるようにするべき。

特に今は、SNS などがあり、簡単に発信ができる。満足しなければ悪い発信もされてしまう。

4.3 テーブル③

(メンバー (敬称略・順不同))

田中奈巳、深澤香里、深山光信、望月俊、望月由佳里

【つながりについて】

WSに参加して意見出しをするなかで、町民から色々と考えが挙がってもそれがなかなか実現されないで、モヤモヤしながら生活を送っている感覚がある。今回計画を立ててそれを実現させないと、町が寂しくなって終わってしまいそうで、老後が恐ろしい。今はまだ自分たちの間にお年寄りがたくさんいるから地域がつながる部分もあるけど、この世代が大人になった時には本当に家と家との間が離れすぎてしまう。人とのつながりを強化していかないと助け合っていけない。そもそもの人が少なくなることで、コミュニティが希薄になってしまうことを危惧している。その中でどうやって計画に掲げた施策を実現するかはとても難しいのかなど。施策を掲げても、人手がないから。人材を引っ張ってくるにはどうしたらいいかと話もしていたが、移住も難しい。転出も多い。

アンケートの集計を見て思ったのが、子供たちにはある程度の教育費をかけてもらっていたので、そういうところは理解をした上で生活をしてほしいと思う。戻ってこられない事情があれば、その分何かしらの、町に対しての感謝というか、恩返しというか、そういったものができるような社会人になってほしいと思う。愛着を持って、ふるさとを大事にしてくれる気持ちを持って出てくれないと。

子育てに関しては結構早めにいろんな対策をしてくれた。南部町の人と同じ世代で交流があった時に、「南部町はそんなことしてくれないから、すごい羨ましい」と。身延町長と南部町長とが話をする機会があるので、「身延町はこういうことをしてくれてるっていうのを南部町長も意見として言う」と、逆に参考にしていた。

そもそも子どもたちがこれだけしてもらっていることを本当に理解しているか疑問。学校で子育て支援の内容は伝えているらしいが、中学生でそこをちゃんと自分の中に入れ込んでまで理解できるのか。やはりある程度社会人になって自分が給料を稼ぐようになってからでないといけないのでは。

「二十歳の集い」などで支援内容を提示してはどうか。小学校の段階で提示しても多分わからないし、二十歳の集いで、子どもの「医療費」や「給食費」、「修学旅行も無料で行ける」とか。子育てには手厚いので、それをしてもらっていない年配の方たち、70代80代の人たちが子どもたちではなく自分たちについていうふうに思う部分もわからなくはない。「そんなことしてもらってなかった」と。しかし、それはやはり時代で、人数が少なくなるのを抑えるために町がしっかり取り組んでいるわけなので。それを子どもたちが理解をしないといけないと思う。そうすると、もしかしたら隣町に住んでいても(身延町は子育て支援が手厚いから)戻ってこようかなと思うかもしれない。

【安らぎについて】

身延町は魅力的だが、戻ってきたくても仕事が薄くなっていたり、インフラなど全部が整っていないと戻ってきにくい。人口が減っていくのは止められないと思うので、もう呼び込む

しかないってなると、もったいない施設がいっぱいあるのにそれが活用できていない。施設運営を企業に委託して整えておけば、きっと若い子も帰ってきやすくなるかなと思う。

仕事場や、住居がないと戻ってこられない。土地もあるし、自然も豊かだし、いいところがいっぱいあって、(町の支援も)手厚いのに人が減っていく現状がもったいない。身延町の良いところをPRするCMを打つのはどうか。「身延町のいいところ」がHPに公開されているが、ネットは自分から調べないととどり着かない。

住みたいと思ってもらえるように若者に伝えれば良いが、山あいが多く日当たりが悪いところがすごくネックになっている。朝日が当たらないとか。

いいところは日当たりも良くて静かだが、駅がない。身延線をうまく利用できてない。町営バスもうまくリンクできていないと思う。市川三郷町は富士川町と橋でうまく接続できるので、人が増えている。(私たちは)買い物に行くのに車で一時間の移動が当たり前。高校に通うのも、電車を待つよりは直接行った方が早い。

インフラは大事だが、現状維持でなんとかしていくしかないのかもしれない。結局、JRだって利用者がいなければ運行しない。現状赤字で、だれも乗っていない時間帯もある。なかなか大人になってから電車に乗ることはない。昨年の秋から膝を壊して、運転ができなかったので何回か身延線を使ったが、仕事に行けはするが、駅から職場までの足に困った。ちょうどいい町営バスもないし、帰りがそもそも時間が合わなくて、早めに切り上げて帰るか、7時過ぎまで仕事してバスに合わせるか…。今回はたまたま家族や職場の方が送迎してくれたので助かったが、本当にこの町のご高齢の方は不便だと思う。免許がなくても使えるようなインフラにしていかないと。乗合タクシーも一応あるが…。学生さんもそうだけど、通勤としてこの「電車を使う」「バスを使う」というのがいかに難しいか痛感した。

(人口ビジョンを見て)今から40~50年ほどで人口がこれだけ減ったのに、現状維持さえできるかなと、電車も同じように動いているかなと考えた時にちょっと怖くなった。一箇所集中で、みんなが集まれる住処を作った方がいいのか、それとももう都市部に移住した方がいいか。そういうことも考えてみると、今も怖いけど将来が怖い。

そうすると、本当に一箇所に集まって暮らすしかない。シェアハウスでもして暮らしていかないと生きていけないんじゃないか。買い物も行けなくなったりして、今は移動スーパーもあるけど、それも人口が減れば来なくなると思うし、乗り合いタクシーも多分距離が離れすぎていて乗り合いができない。タクシー状態になると思う。そうするとやはり町の負担になってくると思うし、税収も入らないし、だからもう悪循環しかない。不便さを受け止めるしかないのかなと。

私たちは将来が見えてる。今の子どもたちにはそれがまだ見えていないと思うので、その子どもたちがどういうふう将来を描いて、この町に愛着を持ってくれるかという、最初の話に戻るが、このまま不便さを子どもたちに背負わせてしまっているのか。子どもたちには自由に選択をさせるしかないのかなと。

病院ももっと減る。実際、年寄り抱えて生活していると土日具合が悪くなると本当にいろんな

ところに電話して、診てもらえないかって。1回の電話で「いいですよ」ってことはまずない。救急というほどでもなく、少しの発熱の場合とか、診察さえもなかなかたどり着けない。入院とかではなくて、多分、年寄りだけではなく、子どもも同じような状況だと思う。急遽発熱したとか怪我したってこともあるが、近くの病院は案内してくれない。大体、子どもだと甲府の方に飛ばされたりとか…。

2人目、3人目とかだと少しの体調不良も対応できるが、初めての子だとすごく怖いと思う。全くわからない状況の時に助言してくれるような場所があると良い。病院行く前に電話して相談できるっていうのはあるが、一人目と二人目、三人目は違うと思うので、そういった意味でもすぐに対応できるような。医療機関も来ない人をずっと待っているわけにもいかないし、難しいとは思いますが…。

【未来への挑み～産業・観光・農業について】

神奈川に山のなかで遊べるところがある。ああいう、外から呼び込む楽しい施設、1日楽しんで遊んでっていうところを作ってはどうか。クラフトパークは楽しめる年齢が限られている。小学生ぐらいまでの子たちがいて、その隣に高校生まで楽しめるところがあると良い。そこへ行くついでに、「じゃあ一泊してみよう」と観光を目的に宿泊できる場所。クラフトパークのドッグランも評判が良く、そこを使うのはお金持ちの方が多いから、そこでお金を落としてもらえる仕組みを作れないか。小学生から高校生ぐらいまでが楽しめる何かがあれば、ほぼ全世代が集まれる施設になる。桜も植えてあるし。

山一つ切り開いて人を呼び込める施設があれば、雇用も生まれる。そうすると、働くことを機会に住んでもいいかなと思ってもらったり。工業団地には町外からみんな来ている。結局、町内の人があまりいない。

製造業ばかりでなく、ITとか出版業者とか、そういった業種があれば。あとは在宅勤務ができる仕事をそれぞれ持ってきて、家でやるとか。働く環境がドラマで見るオフィスと違うので…。ワーケーションのできるキャンプみたいな。グランピングとか。(道の駅しもべのサテライトオフィスや自然の里は回っていない)

やはり拠点を集約した方が良い。クラフトパークの近隣にキャンプ場やグランピング。サンロードのお湯も下部温泉もあるが、集約しようとするのと地元の人が反対するのがネック。しかし、土地を継承するのは難しく、山とかを引き継いでも管理できなくて結局いらなくなるになってしまう。だったら土地を明け渡して施設を集約した方がいい。

金山博物館は一生懸命イベントをやって、ゆるキャラも頑張っているし、大会もたくさん開いている。開成高校や灘高校の生徒も来ていて、そうなる自分の娘も見に行きたいとなる。かみすきパークも導線が一緒だったら良かった。あの辺がコンパクトに体験できればいい。

雨が降っても遊べる場所も良い。クラフトパークだと雨の日はきっと来ない。かみすきパークのふれあい館に屋内の遊ぶところあれば、子供たちが親子で遊びに来る。暑い夏も寒い冬も快適なところで子供を安全に遊ばせられる。1箇所じゃなくても、小学生はクラフトパー

ク、中学生とかはかみすきパークとか。

身延山があったり、伝統もあったりするのに人は減っている。一番有名どころが疲れてきているなという印象はもったいない。総本山と言われる場所は賑わってるイメージもあったりするけど、(身延山は)観光客がだんだん減ってきた。仕掛け作りが大事。

4.4 テーブル④

(メンバー (敬称略・順不同))

池上要靖、遠藤公久、畑野顕、箕浦一哉、若林由美

【つながりについて】

身延町の成人式のインスタから見て取れたのが、若者が身延町に感じる魅力は「自然」以上に「人の良さ」や「近所のおじさん・おばさんとの関係」にあるように感じた。この「人のつながり」こそが、将来的な U ターン の動機や、地域への誇り (シビックプライド) の源泉となるのではないか。

一方で、現状は仕事中心のライフスタイルにより、大人が地域の祭りや伝統行事に参加しづらくなっている。世代間交流の場である獅子舞や祭りは、子供が異世代との接し方を学ぶ貴重な「縦のつながり」の機会であり、ここを絶やさない工夫が必要である。

また、地域コミュニティの機能低下が懸念される中、行政と住民、あるいは移住者と既存住民をつなぐ「コーディネーター」の存在が不可欠である。役場の窓口 (平日限定・制約多) ではなく、民間主導で柔軟に「よろず相談」ができたり、新しい挑戦 (ビジネスや地域活動) をサポートできる中間支援機能 (まちづくり公社のような仕組み) があれば、地域内外の人が混ざり合い、新たなつながりが生まれると考える。

【安らぎについて】

「住み続けたいまち」であるためには、最大の懸念事項である「移動手段 (交通)」と「住居」の課題解決が急務である。交通に関しては、子供の送迎や高齢者の移動が家族の負担となっている。既存のタクシー利用は金銭的ハードルが高いため、引退世代が有償ボランティアとして送迎を行う「副業的な助け合い」の仕組みや、タクシー助成 (お助けチケット等) の導入など、ダウンサイジング社会に適応した地域交通の再編が求められる。

住居に関しては、子育て世代が近隣市町村へ流出するのを防ぐため、大胆な定住インセンティブが必要である。例えば他県の事例にあるような「20 年間住み続けたら住宅・土地を無償譲渡する」といった、今住んでいる人や新たに來る人が明確にメリットを感じられる施策 (家賃補助や公営住宅の要件緩和等) を検討すべきである。

これら生活の基盤 (足と住まい) の安心感があってこそ、豊かな自然環境という本来の「安らぎ」が享受できると考える。

【未来への挑み～産業・観光・農業について】

人口減少 (ダウンサイジング) を受け入れつつ、住民の満足度を高める「グランドデザイン」の策定が必要である。これまでの「人口増・企業誘致」偏重の考え方から脱却し、現実的に働き手が不足している状況を踏まえ、無理に企業を呼ぶのではなく、今ある地域資源や人材をどう活かすかにフェーズを移すべきである。

新しい産業や活動の芽として、都市部のボランティアを受け入れる仕組み (ボランティア休暇を活用した山の整備や農業支援など) は、関係人口の創出に有効である。また、身延町が広域化する中で、各地域の小さなコミュニティだけで課題を解決するのは限界がきている。

行政区の枠を超えた広域的な連携や、民間活力を導入した柔軟な運営体制を構築し、住んでいる人たちが主体的に地域に関われる（そしてそれが利益や生きがいにもなる）環境をデザインしていくことが、未来への挑戦となると考える。

5. 参加者の個別感想（2名の参加者が都合により途中退席）

（参加者 A）

テーブルの中でいろんな話をさせていただいて、それはすごいありがたいことだなと。そういう機会がまた次にあればありがたいなと思います。

お疲れ様でした。

（参加者 B）

4回のワークショップに参加させていただいて、いろんな計画を町としても考えているんだなというのもありましたし、私自身もこれを機会に身延町を再発見して、こういうことが自分でできるのかなと考え直すことができたなという、いい機会になったなと思います。

ありがとうございました。

（参加者 C）

ありがとうございました。

みんなでこういった話し合いをする中でいろんな意見があったんですけど、一つ共通しているのは「どうすれば身延町民として誇れるかな」と。

そういう「シビックプライド」みたいなものがどうやって醸成していくか、そういった話し合いが本当にいろんな意見が出る中で聞いたのが本当に良かったです。

今後も引き続き、こういった意見を参考に自分も頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

（参加者 D）

いろんなジャンル、いろんな職種・業種の方がこうやって一堂に会して、それぞれの分野ごとの意見を出す。それぞれの持ってる課題を洗いざらいにして出して、どのようにして身延町の今後を進んでいくかというところは、非常に大事なことだと思います。

こういう機会をせっかく設けていただいたので、これに問わず、いろんなジャンルの方がいろんな意見を出して、前向きにポジティブな意見を出して進んでいくというのは大事かなと思いましたので、自分自身にとっても貴重な機会だったと思います。

本当にありがとうございました。

（参加者 E）

お疲れ様です。私も生まれも育ちも身延町で数十年過ごしてきたんですけども、ずっと漠然と過ごしてきたんですが、このワークショップに参加しまして、初めて身延町に真剣に向き合ったなというのを感じております。

また色々な意見が出されたり、参加している皆さんの力強いご意見を聞いて、身延町の未来への安心感がさらに募りました。ありがとうございました。

(参加者 F)

皆さんお疲れ様でした。商工会という立場から参加させていただきまして、皆さんの話を聞く中で、やはりそれぞれ身延町に対する期待ですとかというところは、重々と意見として伺ってきましたので、今後私共商工会としても、地域の産業を支えるために何が必要なのかというところも精査させていただきながら、皆様のお役に立ちたいなというふうに思っています。

また、こうやって皆さんお集まりいただいているいろんな意見が出たと思います。

今回 4 回目ということで最後になるかと思いますが、ぜひこういった機会を今後も続けていただければ、またプラスアルファになってくるのかなというふうに思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(参加者 G)

ありがとうございました。私、身延に来て早 9 年目になるんですけども、改めて「いい町に来たな」と、誇りを持って言えるなと思っています。

自分ごとだけではなくて、やっぱり自分たちごとをいろんな目線でいろんなことを考えていけるようになればいいなと思いますし、やっぱり未来を考える、語り合うってすごく楽しいなというふうに思うので、そういった楽しい・ワクワクするっていうことがいろんな方に伝染して、いろんなことを、たくさんのかたを語り合える町になるといいな、なんていうふうに思いました。

ありがとうございました。

(参加者 H)

身延へ U ターンで帰ってきてから 40 年ぐらいになるんですけど、まあここで仕事したり暮らしたり、行事に参加したりしてたんですけど、なかなかそういう中でも自分では気が付かなかった良さ、あるいは逆に問題点とか、そういうことを気付かせていただくいい機会になりました。どうもありがとうございました。

今後ともまた皆さんとこういう話をする機会があればと思います。

よろしく願います。

(参加者 I)

今回は全 4 回のワークショップで、どういうことをしたら身延町がいい町になるんだろうっていうことをみんなで話し合う中で、それがすごく楽しくて、とてもワクワクするような時間でした。

このワクワクした、みんなで考えたことが紙だけではなくて、実現するようになったらいいなと思います。ありがとうございました。

(参加者 J)

皆様大変お疲れ様でした。

こういった素晴らしい皆様と一緒に議論を活発にできたことが、僕にとってもすごいあ

りがたかったなと思います。

僕なんかまだ皆さんに比べれば2年足らずの若輩者ですので、町の政策のこととか課題とかをまだまだ認識するぐらいの立場なんですけれども、こうやって議論を重ねていく中でいろんなことが見えてきたこともありますし、それを今後「できない」っていうふうに決めつけるんじゃなくて、どうやったらできる方向にベクトルを向けていけるかということを考えていければなと今後思いましたので、またより活発な意見を皆さんと一緒にできればなと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

(参加者K)

皆さんお疲れ様でした。

すごくこう皆さんの意見、色々出していただいて、せっかく作った計画ですからぜひ実現しましょう。皆さん身延町を代表して町を動かせる人材が集まっていると思いますので、ぜひ少しずつでも力を貸していただいて、この総合計画がきちんと形となるように。

皆さんまた力を貸していただければと思いますので、ぜひまたこれからもよろしく願いします。

(参加者L)

私は途中から、第3回・第4回と2回の参加だったんですけれども、いろいろな立場の方から様々な意見がありまして、議員の立場としても非常に参考になりまして、とてもいい機会、ワークショップだなと思いました。

第1回・第2回と参加できなかったのが非常に悔やまれます。ありがとうございました。

(参加者M)

皆さんお疲れ様でした。

私も普段仕事をしていること、そして家に帰れば家のこと、と言って、いろんなことを考える機会というのはなかなか自分の時間が作れなくて。

こうして皆さんと全然違う業種の方とお話することで、知らなかったことを知った機会でもありましたし、あとは本当に普段考えていなかったようなことも考えるきっかけになりましたので、すごくいい勉強になったなと思いました。

こういう機会をいただいてありがとうございました。

(参加者N)

ありがとうございました。

諸事情で2回目・3回目と参加できずに、今回4回目参加させていただいた形ではあるんですけれども、報告書を見させていただいたりということで、いろんなご意見をいただいて、これから政策に活かされていくのかなというところで考えたところです。

本当に身延で生まれ育ってというところで自分もそうなんですけれども、まだこういう意見が出ているうちは、身延も捨てたもんじゃないかと思いつつ。

これからまだまだ身延町として頑張っていける部分いっぱいあるんじゃないかなというところで、そのところに自分も力がちょっと添えられたらいいかなというふうに考えました。

今日はありがとうございました。

(参加者O)

こんな素敵な会に参加できて、とても刺激的でした。

こんな素敵な身延町で、環境も良くて自然もたくさんあって、本当は住みやすいはずの町なんですけど、何かもう一步あると出て行った子供たちもまた戻りやすくなるのかなとか、改めて「何とかしてほしいな」ということよりも、「自分たちでも何かができるんじゃないかな」というのに気付かされた会になったのかなと思います。

うちの子供たちは身延町がとても好きなので、もしこの身延町で今後住んでいくのであれば、今よりももう少しこう、生きやすい身延町に、生活しやすい身延町になっていけばいいなという、そんな気持ちで参加させていただきました。話し合ったことを、自分も人事ではなく何かに参加して変えていきたいし、また残る子供たちにもそういう気持ちで身延町を盛り上げていってほしいなと思いました。すいません、ありがとうございました。

(参加者P)

ありがとうございました。身延町に住んで20年になりますけども、生まれたところよりも育ったところよりも好きな町となりました。

不便さを受け止めながら暮らしていますけども、やっぱりこう、何かいいことがあるだろうと前向きになって考えると、本当にこの町も良くなるんじゃないかなと思いつつながら。自分はそうなので、みんなと意見を交わしながら、この計画も、さっき浅野さんも言いましたけど、やっぱり実現をより多くしていかなければ意味のないものになってしまうので、みんなでもまた頑張っていければなというふうに思います。

このワークショップ、本当にこう尊いご縁だなと思っているので、終わってもなんか繋がりが持てたらいいなというふうに思っています。またこう、計画立ててそのまま何も意見がないまま行くんじゃないかと、進行形でいろんな意見を出し合いながら、計画通りに行かない時はそれを修正していければいいのかなというふうに思います。

ありがとうございました。

(参加者Q)

どうもお疲れ様でした。4回のうち、初回が都合が悪くて参加できませんでしたが3回参加させていただきまして、私は町外から参加をさせていただいておりますので、勉強もさせていただきつつという形でしたけれども、身延町のことを考える町民の皆さんが、真剣にこう意見を出し合って、しかも楽しく未来の構想をしていくという場だったというのはとても印象的で、素晴らしい会だったなというふうに思います。

人のつながり、顔の見える関係というのが、この規模感の町の中で非常に大きな強みであって、今回の総合計画の中でも「つながり」というのが大きなキーワードとなっているとい

ところが、非常に重要なところだなというのが、このワークショップの中でもまた感じられるところがありましたし、ここで新たなつながりもできたりしている側面もあるのかなというふうに思うと、非常に貴重な機会だったなと思うところです。

私は町外から伺っていて、身延町というところが、課題ももちろん大きなものを抱えつつも、非常に魅力のある地域だなというふうに思っておりますので、町外から何かまたいろいろな形で関わりを続けられればなと思っております。

どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(参加者 R)

全4回お疲れさまでした。

この4回で出た話を職場に帰って職場の人に話したり、ここで出た話が広まっていった何か一つ形になればいいかなと思います。

いつもこういった場所に来させていただいたときには猫のことを話させていただいているのですが、人口問題で人間はどんどん減ってしまっているのですが、野良猫はどんどん増えてしまっていて、私はその不幸な命が増えないようなボランティアをしているので、複雑なところがありますが、何か猫からヒントを得られるようなことをやってみたいと思っています。

もちろん町民に対して優しい町でもあるのですが、自然といったものを大事にしながら、子どもたちに命の大切さを伝えることができる場所を作りたいと思っていますので、またよろしく願いいたします。

(参加者 S)

私も議員としての立場でありながら町民として皆様と話をさせていただきました。

私が思っていた以上に皆さま熱い熱量があって、身延町を変えていただけるキーパーソンである21人の皆様なのかなと思いますし、他の方の話にもあったようにこの輪を広げられないと町は動かないしまちづくりはできないのかなと思いました。

今まで取り組んできたことを身近な仲間に話したり、お子さん、旦那さん、奥さんに話させていただいて、これだけ熱い熱量を待っている方がいかにその熱を周りに伝えていただけるかが、今後の身延町のまちづくりにかかっているのかなと思いました。

私たち議員も熱量はそれぞれ違いますけれども、皆様に負けないような熱量でこれからもまちづくり町政に取り組んでいきたいと思っています。

4回のWS非常に勉強になりました。ありがとうございました。

【望月町長】

本日はありがとうございました。

まず、皆さんの顔ぶれを拝見して、正直少し驚きました。本当にそうそうたるメンバーの皆さまに、4回にわたりワークショップへご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

皆さんからいただいた意見は、必ず「実現」させなければ意味がないと考えております。

私は町長として10年3か月、現在3期目を務めております。1期目、2期目が経過し、3期目は、この総合計画に基づいて町政を進めていく期間になります。その出発点として、今回初めて町民目線でのワークショップを実施しました。そういう意味でも、第3期にふさわしい、新鮮で実効性のある計画ができるのではないかと大いに期待しています。

先ほどの発表の中で、子どもたちから「子育て支援や教育環境の充実」についてお話がありました。私は、本町の子育て支援や教育環境は日本でもトップレベルにあると感じています。ただ、最近は他自治体も追随してきており、給食費については国費で無償化され、4月から実施されることになりました。国は一人5,200円という基準を示していますが、実際にはそれだけでは足りません。本町ではそれなりに充実した給食を提供しており、これまではすべて町の単費で負担してきました。今後は国からの補助があることは大変ありがたいことですが、内容や質を落とさずに継続していくことが重要だと考えております。

また、2年前に整備した木造の中学校についても、行政だけで整備したではありません。企業、身延山久遠寺、町出身で成功された方々など、さまざまな分野の方々にお願ひし、ご協力をいただきながら完成しました。校舎には西島和紙を活用し、手すりのガラスの間に取り入れています。また、丸太は身延山久遠寺から樹齢100年の杉材をご寄付いただきました。

造成工事では、地盤を約5メートルかさ上げしましたが、日本軽金属株式会社に無償で実施していただきました。行政が単独で行えば、おそらく10億円程度かかったものと思います。日本軽金属は、雨畑ダム上流の浚渫を国や県、町から強く指導されており、その土砂の活用先を探している状況でした。そこで中学校造成への活用をお願ひしたところ、快く応じていただきました。現在も毎年ご寄付をいただいております。

こうした取組からも分かるように、企業や地域のさまざまな主体との横のつながりを行政がしっかり築くことによって、大きな成果を生み出すことができます。これは今後の町政運営においても重要な視点であると考えています。

本日、各班の発表や皆さんの感想を伺い、町の将来を真剣に考えていただいていることを強く感じました。今回でワークショップは一区切りとなりますが、今後、計画の進捗確認や見直しの段階で、改めてご意見をいただく機会を設けることもあるかと思ひます。その際には、ぜひ引き続きご協力を願ひいたします。

1期目は子育て支援などのソフト施策、2期目は中学校、給食センター、温泉、道の駅などのハード整備に取り組んできました。3期目は、これまで築いてきた基盤を活かして、この町がさらに発展できる方法を具体的に形にしていく期間にしていきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願ひいたします。

6. 当日の様子

